



糖尿病通信

-57-

糖尿病と上手にお付き合いするために

新しい診断基準

今年の7月から、糖尿病と診断する時の基準が、変更されました。

1. これまでの基準とHbA1c

現在糖尿病で治療中の方の中には、健康診断で糖尿病と診断され、治療を開始した方が多いことでしょう。その診断基準が11年ぶりに改訂されました。今回の改訂のポイントは、HbA1cです。これまでは、血糖値が糖尿病型(空腹時で126mg/dl以上、食後2時間、または75g糖負荷テストの2時間値が200mg/dl以上)を示し、HbA1cが6.5以上の場合、糖尿病と診断されました。HbA1cが6.5以上あるというのは、糖尿病網膜症があることや、のどが渇いて水分を大量にとり、尿もたくさんでてやせてくるといった、重症の糖尿病による症状と同じ、つまり、すでに初期の段階を過ぎた糖尿病があると示すものなのです。



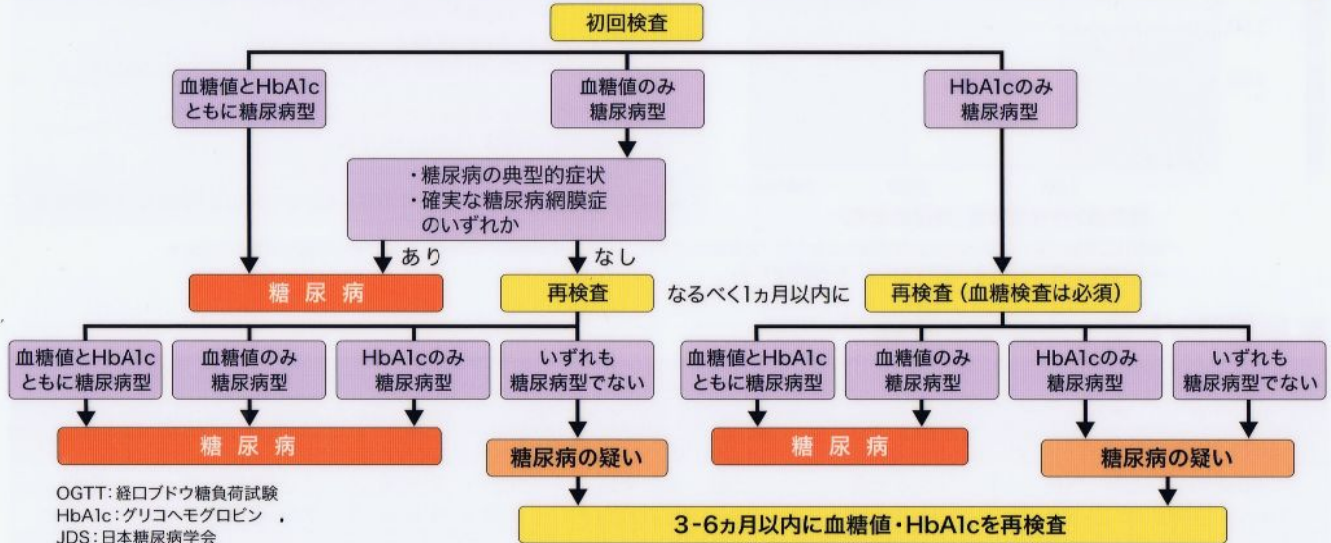
2. 新しい基準とHbA1c

新しい基準では、糖尿病と診断できるHbA1cが6.1に引き下げられました。世界的な基準を考慮に入れた改

糖尿病の臨床診断のフローチャート

監修/ 柏木厚典 (滋賀医科大学副学長・附属病院長)

糖尿病型 ● 血糖値(空腹時 $\geq 126$ mg/dL, OGTT2時間 $\geq 200$ mg/dL, 随時 $\geq 200$ mg/dLのいずれか)  
● HbA1c(JDS値) $\geq 6.1\%$  [HbA1c(国際標準値) $\geq 6.5\%$ ]<sup>注1)</sup>



OGTT: 経口ブドウ糖負荷試験  
HbA1c: グリコヘモグロビン  
JDS: 日本糖尿病学会

- 別の日に行った検査で、糖尿病型が再確認できれば糖尿病と診断できる<sup>注2)</sup>。ただし、初回検査と再検査の少なくとも一方で、必ず血糖値の基準を満たしていることが必要で、HbA1cのみの反復検査による診断は不可。
- 血糖値が糖尿病型を示し、かつ次のいずれかが認められる場合は、初回検査だけでも糖尿病と診断できる。  
① 口渇、多飲、多尿、体重減少などの糖尿病の典型的な症状  
② 確実な糖尿病網膜症
- 検査した血糖値やHbA1cが糖尿病型の判定基準以下であっても、過去に糖尿病型を示した資料(検査データ)がある場合や、上記①②の存在の記録がある場合は、糖尿病の疑いをもって対応する。

注1) HbA1cの国際標準化に伴い、従来のJDS値に0.4%を加えた国際標準値を併記している。  
注2) 糖尿病が疑われる場合は、血糖値と同時にHbA1cを測定する。同日に血糖値とHbA1cが糖尿病型を示した場合は、初回検査だけで糖尿病と診断する。

(糖尿病治療ガイド2010)

訂です。こうすることで、まだあまり進行しないうちに糖尿病を診断することができます。これまで『糖尿病のケがある』とか、『糖尿病になるかもしれない』などと言われて、自分はまだ大丈夫と判断したために、治療開始が遅れてしまい、合併症を防ぎきれなかった方たちがたくさんいました。これからは、まだすい臓機能の障害が少なく、合併症も起こらないうちに、治療を開始することができるのではないのでしょうか。

3. 現在治療中の患者さんと診断基準

HbA1cを6.1以下にすることができれば、理想的な治療です。しかし、薬だけに頼ってコントロールしようとすると、血糖値の変動が激しくなったり、低血糖の危険が増したりして、合併症を防ぐことができません。まず食生活をしっかり管理し、体をこまめに動かしてしっかり体重をコントロールし、少ない薬で、上手に良い血糖を保つように気を配りましょう。 内科 柳澤